魔法の呪文

朝明中学校３年
学年通信
２０１５，　６，２３
No．２０（稲森）

一字の迷い

～国語の先生として伝えたいこと～

先週の水曜日に、班替えがありました。楽しかった六人制の修学旅行班もこれで解散になります。ここからは通常通り四人班で協力していきましょう。

さて、その翌日の木曜日には班替え後初めてのGWT（グループワークトレーニング）がありました。テーマは「対話」。内容は「一字の迷い」で、あるテーマに沿った文章を、一人一字ずつ順番に書いていくというものでした。班活動の様子を見に行きましたが、できあがった文章のおかしさにクスクスと班員同士で笑いあう姿が印象的でした。以下に感想を載せます。

・自分の考えが通じないのがかなりもどかしかった。

・自分が思っている文字をみんなが書いてくれなかった。

・言葉じゃないと伝わらないことはたくさんあって、話し合うことはとても大事だと思った。

・「みんなちがってみんないい」という言葉に納得した。

・言葉なしで相手の思っていることを読み取るのはとても難しいことだと感じた。

・口があることに感謝。

班員はいったい何と書こうとしたのだろう。おお、そうきたか。など、人が考えていることを想像するというのはとても難しいですね。ところで、今回のテーマである「対話」は「会話」とどう違うのでしょうか。困ったときは辞書を引いてみましょう。

「対話」・・・物事と向き合って精神的な交感を図ること。
「会話」・・・二人または数人の人が話をすること。また、その話。
『明鏡国語辞典』

対話とは心の読み合い。考えてみると、「他愛もない会話」とは言いますが、「他愛もない対話」とはあまり言いませんね。それは、対話には心が通っているからです。対話をするときには互いに心を通わせないといけないのです。これが本当に難しい。

私はよく国語の授業で「日本語は美しい」ということを言います。それと同時に「日本語は難しい」とも言います。日本語の場合、一字違うだけで印象が大きく変わってしまうことが多々あります。例えば、「先生、今日も素敵ですね。」と言われた場合と「先生、今日は素敵ですね。」と言われた場合、たった一字違うだけなのにかなり意味が異なっていますよね。言ってくれた本人は、どちらも先生と良好な関係を築こうと思っての一言であったはずです。しかし先生側からすれば、「今日も」と言われた方がなんとなく嬉しく感じますね。文法的に説明をすると、「も」や「は」は助詞といって（みなさんは今後習います）、たったの一字なのに文意に大きな影響を与えています。

「一字の迷い」からは少しずれますが、みなさんが既に学習した内容で例えると、自動詞と他動詞というものがありますね。よくこんな言い訳をしてくる人がいます。
「先生、プリントがなくなりました。」
よく考えると変な日本語ですね。プリントは勝手になくならないので、この場合は「プリントをなくしました。」が正しい表現です。似たような意味ですが「なくなる」という自動詞と「なくす」という他動詞で伝わり方は違います。とても細かいことではありますが、このような微妙な心のずれが、時に大きなものとなり相手との関係を悪くしてしまう可能性があるのです。

私はよく「なんで国語を選んだのですか？」と聞かれます。いろんな理由がありますが、国語で一番伝えたいことは日本語の美しさと難しさだと考えています（今回は難しさ中心の話ですが）。みなさんは今後社会に出ていろんな人たちと関わっていきます。その人たちとの対話で、自分の日本語が未熟であったがために関係を悪くするような人になってほしくないのです。自分の伝えたいことをしっかりと相手に伝えるのは実はとても難しいこと。今回の活動を通して、少しでも対話の難しさ、人と心を通わせることの難しさと大切さをわかっていただけたでしょうか。だからこそ対話をするときには、お互いの心を読み合い、相手と心を通わせることで、よりよい人間関係をつくっていきましょう。